

「真理にならう者へ」

～あなたは真理を流していますか？～ ローマ4：13-18 ヘブル6：1-12

■ あなたは何をモデルに生きていますか？

日本には「親の心子知らず」「親の背を見て子は育つ」という言葉があります。実際に私たちが生きている世の中は、この言葉のとおりだと感じる事がたくさんあります。親が子に対する愛情を、子は間接的に聞いたり実際に自分が親になって気づかされたりします。また私たちのなかには親の思いを受け継いで生きている人もあれば、親をみて自分はいかならないと決めていたのに、知らないうちに同じように生きている人もいます。

なぜ、このようなことが起こるのでしょうか？それは父が子に継承するように、父がモデルになって子どもが継承するようにできているからです。伝えるべきことは「人がどう生きるべきなのか…」これに尽きます。

だからこそ、もしもあなたがモデルにするべき人ではないものをモデルにしているとすれば、それは全く無意味なものになってしまいますし、モデルを間違えて比較してもしようがないのです。父が行ったことがどのように継承されているのかじっくりと見定めてみましょう。そして父の日である今日、特に信仰の父といわれるアブラハムにスポットをあてて、私たちがどのように生きていくよう聖書が教えているかを共にみていきましょう。

■ アブラハムにみる父の姿

なぜ、アブラハムは信仰の父と呼ばれるようになったのでしょうか。それは彼の目の前にある現実を見ればとても望みを得られないような時でさえ、望みえないときに望みを抱いて信じたのです。(ローマ 4:18 参照) この姿こそ私達にならうモデルです。「神様は自分を愛しており、必ず皆無事に山を下りさせてくださる」と神様を信じその声に従うことができたアブラハムの姿にみる事ができます。きっと彼自身の中には自分の願いや想いがたくさんあったでしょう。しかし自分を無に(無私)して見えるものに目を留めるのではなく目に見えないものに従うことを選びました。男性は特に合理的で次へ進んでいかないといけない役割があるので、自分の思い描いたこととおりにできないと諦めてしまう性質があります。しかしその思いに従っては何も成し遂げることはできませんし、その思いに打ち勝つ強みが私たちクリスチャンにはあります。それはアブラハムのように世の中では望み得ないと思えることに望みを抱いて歩んだ結果どのようになったかを知っていること、また、その思いを継承するために神様が私たちが愛し創造されたことを知っているということです。そのことを受け取ったあなたは、目的のものを得られるまで多くの人と関わり、生き様を示す者となり、父の思いを継承する者となれるのです。

■ 私たちに任されている大切な役割

あなたの記憶の中で、あなたの人生において大きな影響を与えた人は誰でしょうか？多くの人が両親(身近で自分を養ってくれた人)や先生(自分を教えてくれた人)と答えるのではないのでしょうか。

自分にされて嬉しかったこと、嫌だったことなどはたとえ幼いときの記憶であっても長い人生を歩んだ今でも鮮明な記憶として自分の内に残っています。だからこそ、私たちは自分の周りに与えられている、血のつながりに関わらない全ての子ともたちに、自分がどのような態度で接しているか今一度確認しなければいけません。あなたにとってとはとるに足らない態度や言葉がその子にとって一生に関わる大きな影響となるかもしれませんし、あなたが真剣に向き合ったことで、その子も真剣に向き合うことを知り、一生の宝を得ることができるともかもしれません。すべてはあなたの生き様でしか語ることができないのです。(ヘブル 6:1 ~ 12 参

■ 真理にならう者となるために・・・

■ ①信仰の父の背にならう

聖書には先人たちの歴史が記されており、その多くは失敗の歴史です。しかしそこには私たちが学ぶべき失敗した時に戻ろうとする姿があります。人が向き合うなら神様はその失敗を赦し益としてくださいます。それは神様の愛と奇跡、失敗のすべてをぬぐうため十字架にかかられたイエス様の姿のあらわれです。罪をぬぐわれた私たちは彼によって生きる決意をする時に、神様によって力を得て、この地においてヒストリーメーカー、またピースメーカーとして生きることができるようになりました。そんな私たちの価値観が真理であるかどうかはどのようにしたら判別できるでしょうか。それは私たちがその人を愛しておこなっているかどうかです。愛があればその人に語った言葉で相手は生き、愛がなければつまずきとなり実を結ぶことはできなくなります。もし私たちが今、正しい背中を目を向けることができているなら、そこから自分自身の人生を変えることができ、周りの人も変えられていくのです。

■ ②あなたが父となる！！ 父とは生き様である

いつまでも受けるばかりでいてはいけません。聖書は「受けるより与えるが幸い」と伝えており、男性女性に関係なく、私たちは受ける者から父として流すものにならなければいけません。天の父がおこなったことは、私たちを愛するが故に愛するひとり子を犠牲にしたということです。私たちのうちには日々さまざまな葛藤があります。しかしそのような中で私たちはそんな父の姿から自分の生き様を通して次の世代に継承していく役割があるので

■ ③約束のものを受ける！！

望み得ないことを望もうとすること、諦めそうになったときに諦めずに向き合おうとすること、たとえ無理だと思っても自らに与えられた使命ならそれを成し遂げること・・・これはクリスチャンだからこそできることです。人生の中で実が実るまで時間がかかることはたくさんあります。しかし、途中で諦めたり一時の思いで心を惑わされたりすると大事なものが継承されなくなってしまいます。あなたの役割はまだこれからです。自らの生き様をもって自らが涙と共に蒔き、喜び叫びながら刈り取る人生を歩みましょう。私たちは先人が蒔いてくれたものを刈り取る人生を歩んでいるのですから、私たち自身も次の世代のために種を蒔き続ける者となりましょう。

まとめ

真理とは、愛の故に自らを犠牲にし、あなたの過去のすべての罪を背負ってくださったイエス・キリストの姿です。彼の生き様を継承できるよう、もし今あなたの中心が自分であるなら、無私で心で人々にあなたの生き様をもって愛を伝えていきましょう。

あなたはそれぞれが経験したことから様々な価値観を持って生きています。しかし人の命ははかないもので、あなたには知り得ない定められた時の中をあなたは今、生きています。だからこそあなたは日々の中で大切な言葉を、そして生き様を継承していかなければいけません。これからの日々を、人と比較することなくあなたが創られた本当の自分を保つことができるように、そして『私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によるのです。(ガラ 2:20)』という人生を歩むことができるように祈ります。真理にならう者として、生き様を示していきましょう。

(要約者:平澤 瞳)

(6月18日)